



リレーエッセイ

ハードルを越えて

ひ だか あ り さ
日高 有彩さん
(鹿児島市)

46

私は昨年11月に開催された第44回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）の写真撮影部門において厚生労働大臣賞にあたる金賞を受賞することができました。

初めてカメラを手にとったのは、職業訓練校の社会研修でかごしま水族館に行つて、先生から借りたときでした。その時に撮った私の写真をみたスクールカウンセラーの先生が「よく撮れている」とおっしゃってくださいました。それまでは携帯で写真を撮るのは好きでしたが、カメラを持つどころか、使ったこともなかったです。水族館で初めてレンズ越しの世界を覗いてみると、普段みている景色とはまた違うキラキラした情景が写っていて、なんだか嬉しく感じました。現像した写真はとても気に入っていて、今でも玄関に飾っています。

アビリンピックに参加することになったのは、当時の担任の先生がすすめてくれたからです。（一昨年参加した）1度目の県大会は銀賞、（昨年参加した）2度目の県大会は金賞を受賞することができました。県大会では、制限時間内に撮影した写真の中から3枚を提出しました。1枚目は、清掃員がビルの窓を磨いている様子。2枚目は、清掃員が掃除機などで床を掃除している様子。3枚目は、アビリンピックのキャラクターと、そのキャラクターを撮影しようとしている人たちです。銀賞を受賞したとき、審査員の方から”人物は頭からつま先まで撮るといい”とアドバイスを受け、意識して取り組んだ結果、翌年に金賞を受賞することができ、1度目の悔しさを晴らすことができました。

昨年の全国大会では、提出する写真が5枚に増え、慣れている選手も多くいる中、時間内に終わらせなければと焦りを感じました。その年の大会から競技で使用するカメラの持ち込みが許可されたので、私は愛用しているニコンの一眼レフカメラを持ち込み、撮影しました。中古で買った少し前の機種ですが、状態もよく、大会のために望遠レンズを準備して臨みました。撮影・編集・印刷と1日がかりの作業で体力も気力も消耗しましたが、いい結果を残すことができました。悔いのない写真が撮れて嬉しかったことと、大会後の選手交流会で色々な話ができことが印象に残っています。他県の選手の方たちは、競技中の真剣な様子から一変、明るくノリのいい人たちがばかりで、写真を上手く撮るコツについて意見交換ができました。

今の目標は2027年にフィンランドで行われる世界大会に出場することです。そのために、一番心がけていることは、絵画のような写真を撮ることです。大会で審査員の方から、絵画に似た細かい描写ができていると評価されたことがきっかけです。これから絵画展などを訪れて、さらに研究したいと考えています。まずは、今年10月に行われる全国大会で、昨年に引き続きいい結果が残せるように準備を進めていきたいです。応援よろしくお願いします！



初めての写真は、かごしま水族館のチンアナゴです。先生に褒めていただいて、とても嬉しかったです。



愛用しているニコンの一眼レフカメラで、今年も金賞を目指すと話してくれた日高さん。

